

高校国語において自分の学びを調整できる生徒の育成 —単元内自由進度学習を促進するための振り返りシートの工夫を通して—

特別研修員 国語 後閑 貴仁（高等学校教諭）

○生徒の実態

学習中に指示を待つ場面が多くなってしまったり、分からなくても同じやり方で学習を続けてしまったりするなど、授業中の態度が受動的である。

○教師の願い

自分の学びを調整しながら主体的に学習してほしい。



○手立て

単元内自由進度学習を促進するための振り返りシートの工夫

- ・取り組む教材、最終課題までの過程、学習中の取り組み方など、生徒が「自己決定」する場面を可視化
- ・選んだ教材、進捗に応じた計画や取り組み方の変更など、生徒が「自己調整」する場面を可視化

計画表（全4時間）

取り組む教材を決めて記入。

・「芥川」
・「あづま下り」

やることリスト

- 1回目
- ☐ 芥川の内容を理解する
 - ☐ 選んだ和歌を訳す
 - ☐
- 2回目
- ☐ 1回目の内容をより詳しく
 - ☐ あづま下りの内容を理解する
 - ☐
- 3回目
- ☐ あづま下りに入る和歌を選ぶ
 - ☐ 選んだ和歌を訳す
 - ☐ レポート開始
- 4回目
- ☐ レポートを終わらせる
 - ☐ 時間があったら筒井筒の課題
 - ☐

修正版

- ☐ 1回目の内容をより詳しく
 - ☐ 選んだ和歌を訳す
 - ☐ あづま下りの内容を理解する
- A

①歌物語に登場する和歌の効果やはたらきはどのようなものだと思うか。

物語に深みを出す。余韻を強くする。おしやれに人物の気持ちや状況を伝える。

1回目 月 日 ()

- やること
- ☐ 芥川の内容を理解する
 - ☐ 選んだ和歌を訳す
 - ☐

今日できたこと・今日の反省

計画を立てることができたが、和歌を訳すことができなかった。①

疑問・質問

特になし。②

最終課題のための手掛かり

まだない。③

2回目 月 日 ()

- やること
- ☐ 1回目の内容をより詳しく
 - ☐ 選んだ和歌を訳す
 - ☐ あづま下りの内容を理解する

今日できたこと・今日の反省

前回の後れを取り戻すことができた。

疑問・質問

最終課題のための手掛かり

和歌の意味が登場人物の境遇と似ている

②最終課題

全体の学習を振り返る
(=学習内容について)

古文を読むときには単語一つ一つを読んでみてどのような情景や場面なのかを感じることが大事だなと感じました。

今後に生かせそうなこと
(=学習方法について)

どの教科も基礎知識がないと、考えたり、解いたりすることもできないため、各教科、基礎知識をつけて、内容を理解し、考えたり、取り組んだりしていきたいと思った。

A

指定時数に合わせて計画を立てる。
・「やることリスト」に最初の計画
・「修正版」に進捗に応じた計画を記入する。

B

「やること」を見ながら毎時間の振り返りをする。

- ①その日の進捗や反省
- ②作業中疑問に思ったこと
- ③最終課題の手掛かりを記入し、蓄積する。

※②には必要に応じて教師がコメントをする。

C

学習の成果をレポートにする。

D

全体の学習を振り返る。

- ・学習内容について
 - ・学習方法について
- の二つの観点で振り返る。

○目指す生徒像

自分の学びを調整しながら学習できる生徒

○成果

生徒は振り返りシートを使いながら最初に立てた計画を基に自分の学びを客観的に振り返ることで、能動的に学習していた。学習の中で進捗に応じて自分の計画を変更したり、分からないところは友人と協力したりするなど、学びを調整する様子が見られた。

●課題

学習の進め方に戸惑っている生徒が見られた。生徒主体で学習が進むため、より精緻に課題の難易度を設定する必要がある。また、理解に応じたヒントを出すなど、生徒が主体的に動けるような支援をする必要がある。